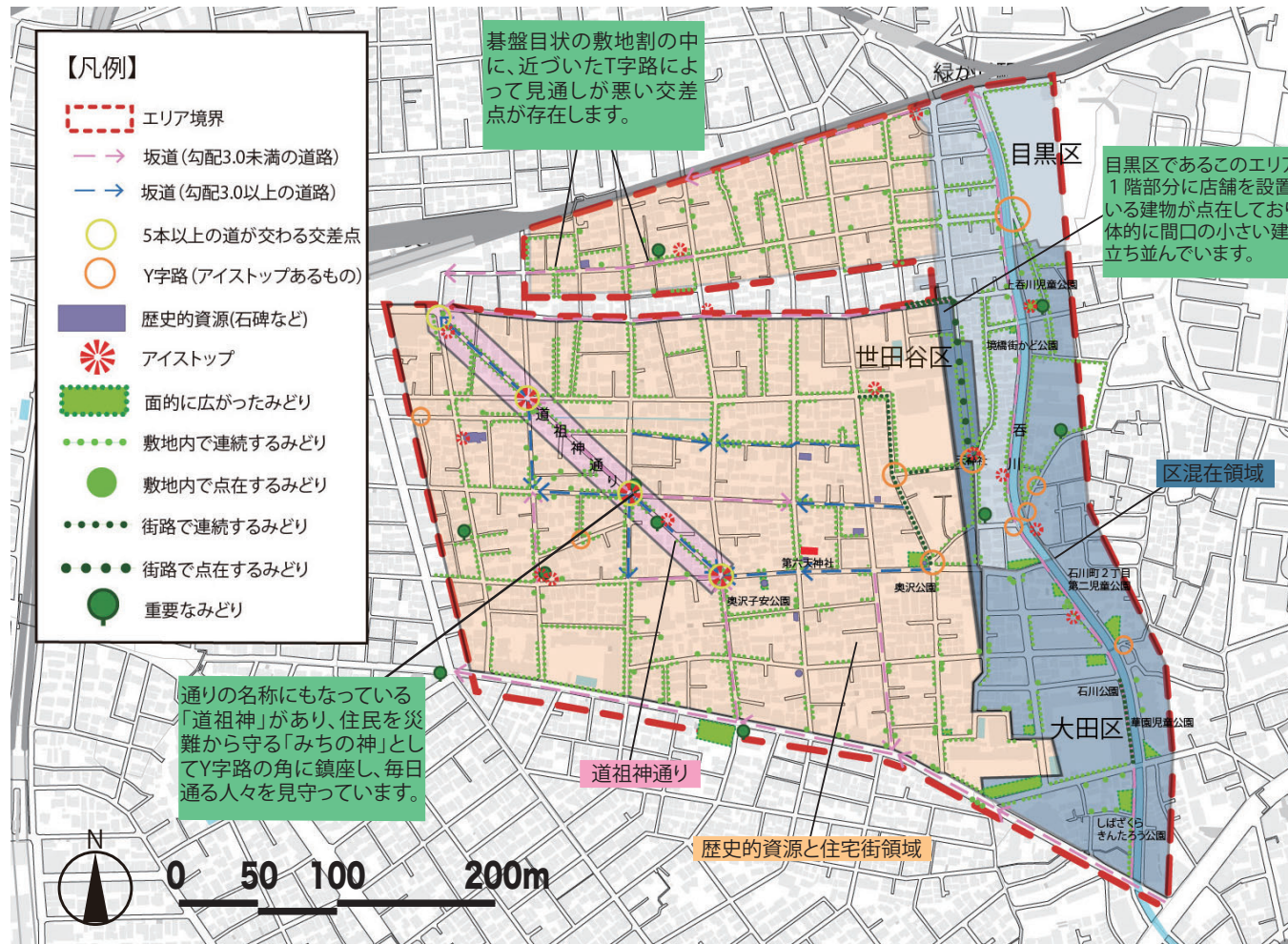


4-5 奥沢1・3丁目住宅街エリア

大正時代の玉川全円耕地整理によって整った道路基盤が基調のこのエリアは、土地の高低差や街路構成の変化などの特徴がみられます。また、呑川周辺は世田谷区、目黒区、大田区の3区が接しており、それぞれ土地利用や道路幅員などの区ごとに特徴的な景観となっています。閑静な住宅街に、点在する公園に見られる面的な緑や住宅に植えられている緑、川や緑道などの多くの自然があります。更に、庭先から溢れ出す緑によって、歩いているだけで自然をより身近に感じられ、エリアのイメージを形成する存在となっています。

景観特性



1. 緑と調和する街並み



界わい形成地区の共通方針である積極的な緑化が街並みを形成し、緑の効果が感じられます。高低差のある地形に低層住宅が広がるエリアであるとともに、周辺との調和を図った建物外観によって、繋がりのある景観となっています。また、街路や建築物に沿って植えられた緑によって、自然の連続性を感じられる景観づくりが施されています。

2. 斜行する道祖神通りが軸となる沿道 3. 川を起点に集まる3区



基盤目状の街区に対して斜めに交差するこの通りは、緩やかな勾配と、沿道に植えられた豊かな緑、歴史的資源である「道祖神」によって構成される重点エリアです。道祖神通りでは、角が道路に接する建物や多叉路が多く見られます。このような街路構成は、基盤目状に整った規則的な街並みに変化を与え、視覚的な新鮮さをもたらします。



3区の境界が集まっており、中心部を流れる呑川に沿って歩行空間と緑道が見られます。自然と歴史の調和がみられる世田谷区、店舗と住居で賑わいをみせる目黒区、ゆとりのある街路空間が印象的な大田区といった、同じ住宅街でも3区それぞれの特性がみられ、周辺エリアから川に向かって下る緩やかな傾斜や、自然要素が集まり増大した緑が存在感のある空間となっています。

景観形成の目標

連続する緑と変化する街路空間によって、歩きたくなる街並みへ

本エリアは、3区に跨る呑川と、重点通りである道祖神通りがある特徴的なエリアである。そこで、特徴的な街路と自然要素を守りながら歩いて楽しい街並みの形成を図る。

景観形成の方針

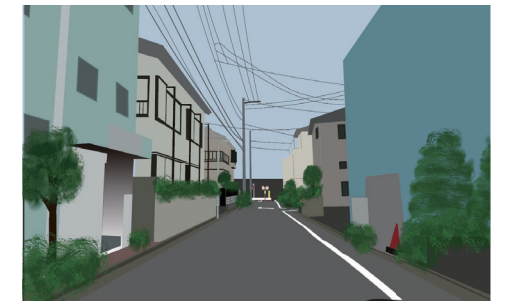
1. 緑の彩りと景観を調和させる街並みへ

景観形成の考え方

住宅全体に緑を連続させることによって、日常に緑を感じられるようにする。

具体的な方策

- 植栽の高さは、目線以下または2~3mの中木に限定し、常緑樹と落葉樹を組み合わせることで、四季の変化を感じられるようにする。
- 住宅において、道路に面している部分の緑化を徹底し、緑の連続性を途切れさせない。
- 既存の植栽を残す。



緑の連続性を途切れさせない

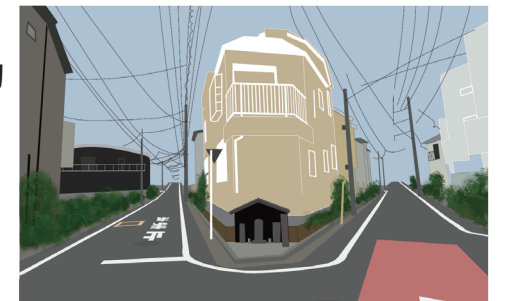
2. 通行人にとって歩いて楽しい街並みへ

景観形成の考え方

道祖神通りのアイストップとなる多叉路の突き当たり部分や歴史的資源などを活かした景観をつくる。

具体的な方策

- 多叉路などの視線が集中しやすい場所と、点在する小規模の歴史的資源の周辺をともにアイストップとなるように工夫する。
- 歴史的資源である道祖神周辺の緑化をやめ、妨げないような景観づくりをする。
- すみ切りが見られる建物や交差点はすみ切り線に合わせて壁面を工夫する。



道祖神を活かした景観をつくる

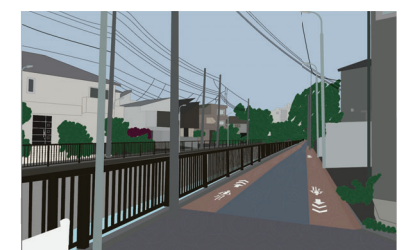
3. 見通しが良く、歩きやすい川沿い景観をつくる

景観形成の考え方

街灯の設置や舗装の工夫により、単調な景観に視覚的变化を与え、歩きやすい空間をつくる。

具体的な方策

- 路面に区章をモチーフとした柄を施すことなどで、変化を楽しめる歩行空間を作る。
- フェンスの色味を工夫することによって周辺との景観の調和を図る。
- 街灯や照明を設置し歩道と川に明るさをもたらすことで、安全に通行できるようにする。
- 橋から見た建築物や植栽での圧迫感が和らぐよう、橋詰周辺では樹種や樹高を考慮する。
- 川沿いの建築物は河川に対して正面性をもたせ、開口部を設ける。



舗装と街灯により、歩きやすい景観をつくる